

(4) 主要果実の入荷と価格の見通し

仙 台 市 中 央 卸 売 市 場

(電話) 2 3 2－8 1 2 2

【概要】

夏場から秋口にかけての高温により国内各産地での生育環境は昨年同様厳しい状況ですが、前年と比較してみかんは各産地出荷量が前年より2割ほど多い予定です。輸入果実の相場はバナナを中心に安定した価格で取引されています。国内果実の入荷量に押されて荷動きは厳しい状態が続きます。

【品目別】

ミカン	長崎県産は昨年より2割増しの入荷ですが、平年と比較すると1割ほどの減少です。販売期間は年明け1月いっぱいです。熊本県産は大玉傾向で、普通柑は12月15日頃からの販売開始となり、年内でほぼ終了し、価格は前年並みです。静岡県産は12月15日頃から品種「青島」が出荷開始となります。価格は昨年並みで推移します。
リンゴ	青森県産は前年より少ない入荷量となっています。価格は高値での取引となるでしょう。岩手県産も今月いっぱい終了となり前年よりやや高めです。
カキ	奈良県産「富有柿」の冷蔵物が12月中旬で終了します。1～2回（15～20トン）の入荷で価格は、昨年並みの1キロ550～500円位となります。宮城・福島県産は1月下旬まで入荷がありますが、数量減で高値になる見込みです。
バナナ	ハイランド系などの高糖度の入荷は多くありませんが、レギュラー系は安定した入荷となっています。
イチゴ	宮城県産いちごの生育遅れが懸念されます。クリスマスの需要期においてはひっ迫し、高値が予想されます。12月下旬から年明けにかけて回復する見込みで、数量は増えてきます。
温室メロン	熊本県産は昨年より少ない入荷見込みで単価高が想定されます。販売期間は12月20日前後で終了し、年明けにおいては未定です。高知県産は少なく12月中旬以降は価格が上がる見込みです。